

ほっこりカフェ氷室「2020年度活動報告」

①ほっこりカフェ氷室

高槻バプテスト教会一階ホール(高槻市氷室町 2-30-15)

②カフェの様子

食事を一緒に作り会食するという 3 時間を超える密なカフェは断念するとともに、形を変えて再開を模索して世話人会を重ねた。高槻市のほとんどのカフェも中止していた。

1月に開催してから10か月ぶりに11月24日(金)午後1時間だけ再開することが出来た。久しぶりの再会でコロナ禍の大変さや変化など近況報告をした。社会福祉協議会の紹介で参加したご夫婦が新たに参加された。家族は溜まっている思いをそれぞれ打ち明け、本人は簡単な体操で身体を動かしてリラックスして過ごしていたようだ。在宅での介護が困難になり施設入所になった人もいた。1時間と短かったが充実した時を過ごしたと思う。

カフェへの期待の高さを確認し合ったが、その後の緊急事態宣言により再開の目途は建てられず、2021年3月の実施を目途に準備を進めている。

③工夫していること

人との関りや社会生活全てが長期間にわたって自粛することで、認知症の人とその家族の生活が孤立化したり、煮詰まったりして悪化するのではないかとの恐れがあった。電話等で安否を尋ね、デイサービスの利用を勧めたケースがあった。しかし、これらは1カフェの努力や力量を超えるものがあり、高槻の「認知症を理解し地域で支える会」主催による「情報交流・相談会」を協働して11月に実施した。相談会は通常40名の参加があったのだが、この時定員10名と縮小して今困っている人たちに選択して実施した。

高槻のカフェは、ほとんど月1回開催なので梯子をして参加しているケースが多く、工夫して開催することが市の担当者から期待されていることもあり、連携した活動の意義を確認した。

2020年2月20日

報告者 ほっこりカフェ氷室代表 中越 優